

2016-9-1
No.986 250円

思想運動

活動家集団 思想運動

発行・小川町企画 〒113-0033 東京都文京区
本郷3の38の10さかえビル2階 ☎03-3818-
6671 FAX03-3818-3199 (郵便振替)00190-0-758235
小川町企画・関西連絡先 ☎080-4700-6461
HP <http://www.shiso-undo.jp/>
購読料:年間6,000円 半年3,000円(送料共)

山下菊二(一九一九〜一九八〇)徳島生まれ。画家を志し、九歳で上京、シュールレアリスト福沢一郎の絵画研究所で学び、タリ、エルンストを知り、ポツシユにひかれる。二〇歳で召集され、大日本帝国陸軍の二兵卒として、中国南部での日中戦争に送り込まれる。中国人捕虜の惨殺を命じられ、それに抗つてできなかった体

験は、帝国主義戦争の戦争従犯者としての戦争責任を自己に問ひ、また最高責任者としての天皇の戦争責任を生徒にわたって追及した。《供御画》(一九六九年)は明治天皇を起点として日清・日露戦争から日中戦争にいたる皇室の血脈が、天皇の武力と皇后の文化によって推進されて来た事実を鮮やかに示している。

編集部



山下菊二<供御画> (1969年)

天皇8・8談話は憲法違反である

天皇の言行に惑わされるリベラル派の思想的墮落

参院選で改憲勢力の三分の二超が確定したのと同様に、公表された。女系天皇の前に立たされたのは、「日本の意向」が報じられたのは、七月十三日朝であった。誰が、何のために、このタイミングで情報をリークしたのか。第一報を流したのがいまや権力の走狗と化したNHKだったために、明文改憲の突破口を開こうとする政権中枢の深謀遠慮が働いているのではないかと疑がわれたとしても、決して不思議ではなかった。さまざまな憶測が飛びかき、波紋が広がるなか、背景や意図がようやくの見えるようになり、ここは昨年来、天皇とその周辺でくすぶっていたことが次第に明らかになってきた。

宮内庁はビデオメッセージの形式で天皇の肉声を国民に伝えると発表し、八月八日いつせいに放映された。宮内庁官僚や歴代政権と天皇とのあいだに、象徴天皇制のありかたや将来像をめぐって齟齬が生じていたことが、天皇の肉声をおして浮き彫りになった。「生前退位」の意思表示は、戦後七〇年が経ち象徴天皇制の矛盾やほころびが目立ってきた。女系天皇も数えかわらず、宮内庁官僚や歴代政権が一貫して問題を先送りし、積極的に打開しようとしてこなかった政治の現状への、天皇の焦燥と危機意識の表白にほかならなかった。そこには天皇制を何としても維持していくとの強い意志が込められていた。

たとえば小泉政権下の二〇〇五年、皇室典範の改正を審議する有識者会議が設置され、

最初の試練は明仁のときに訪れた。マスコミが仕かけるさまざまな美談のつち上げや慶祝ムードとは裏腹に、わたしたちは何い知ることのできない、当人はもとより血縁者におよぶ形質(生物に備わる形態的遺伝的特徴)上の緻密かつ執拗な詮議がおこなわれたはずである。皇后美智子は三たび失語症を患った。現皇太子の場合には明仁の場合よりさらに大きな困難に直面したであろう。雅子が抱える精神疾患は、なかば義務的に男子を産まなければならなかった立場上の重圧と、おそらく無関係ではあるまい。天皇一族は、なにかなく天皇の地位は、「国民の気持ちに寄り添い、苦楽を分かち合う慈愛に満ちた」外見上のイメージと正反対の、非人間的な抑圧な、古典的解決形態である側室制度を復活させるわけにもいかないのだから。

天皇の地位の男系男子による継承と、天皇の「生前退位」を許さない定めとは、近代天皇制によって確立された。近代以前の天皇の地位は決してそんなものではなかった。やがて一時的にやめた天皇は多数いた。女系天皇も数えかわらないもの存在した。元号はめでたい出来事、不吉な出来事があったからと、しばしば改元がおこなわれた。戦後改革によっても、男系男子による皇位継承と、一世二元の原則はそっくり引き継がれた。しかも皇族の結婚相手の供給源だった華族制度が廃止された。このため皇族の結婚難という新たな障害が立ち現われてきた。

「昭和天皇も現天皇も、神道形式でおこなわれる宮中祭祀を、名称を変えつつも戦前そのままに受け継いできた」といった「私的行為」に分類し、このうち①と②を「公務」と位置づける。しかし③の「公的行為」そのものが明白な憲法違反である。権力は、「公的行為」と対象の拡大をうけて、「国民統合の象徴」という第一条を利用して、天皇に「国民を統合する」役割を積極的に担わせてきたのであり、国民のあいだに天皇への敬愛の念を植えつけ、広めてきたのである。

再生産される旧憲法下の天皇観

天皇は、今回のメッセージをとおして、象徴天皇制の積極的かつ自覚的な探検者・実践者という自画像を描き出した。かれの描いた自画像は、マスコミが描き出す天皇像と何と似ていることだろう。即位にあたり「日本国憲法を尊重する」と宣言したかれは、天皇の「公的行為」が憲法違反にあたると、露ほども疑っていないことも明らかにした。要するにかれは、権力の敷いた「公務」というレールに乗り、「国民を統合する象徴」としての努めを誠実に履行してきたが、高船にともなう体力・気力の衰えからその責務をもちや十全に果たせななつたと、「生前退位の意向」を表明したのであった。天皇の地方行脚は全都道府県におよぶ。天変地異が起きれば、しばしば時をおいて被災地に足を運び、犠牲者の冥福を祈り、ひきまですいて被災者に接し、激励する。それをまたマスコミが巧みに伝える。

女系天皇を是認する報告書が公表された。女系天皇の前に立たされたのは、「日本の意向」が報じられたのは、七月十三日朝であった。誰が、何のために、このタイミングで情報をリークしたのか。第一報を流したのがいまや権力の走狗と化したNHKだったために、明文改憲の突破口を開こうとする政権中枢の深謀遠慮が働いているのではないかと疑がわれたとしても、決して不思議ではなかった。さまざまな憶測が飛びかき、波紋が広がるなか、背景や意図がようやくの見えるようになり、ここは昨年来、天皇とその周辺でくすぶっていたことが次第に明らかになってきた。

宮内庁はビデオメッセージの形式で天皇の肉声を国民に伝えると発表し、八月八日いつせいに放映された。宮内庁官僚や歴代政権と天皇とのあいだに、象徴天皇制のありかたや将来像をめぐって齟齬が生じていたことが、天皇の肉声をおして浮き彫りになった。「生前退位」の意思表示は、戦後七〇年が経ち象徴天皇制の矛盾やほころびが目立ってきた。女系天皇も数えかわらず、宮内庁官僚や歴代政権が一貫して問題を先送りし、積極的に打開しようとしてこなかった政治の現状への、天皇の焦燥と危機意識の表白にほかならなかった。そこには天皇制を何としても維持していくとの強い意志が込められていた。

たとえば小泉政権下の二〇〇五年、皇室典範の改正を審議する有識者会議が設置され、

「公的行為」は憲法違反

八月八日に発せられた天皇のメッセージは、宮内庁と政府間で事前の調整を経たものと伝えられている。しかしそれは、結果的に、「生前退位の意向」を強くにじませるものとなった。こうして天皇の発言を契機に、遅かれ早かれ、象徴天皇制のありかたや皇室典範の改正問題などが政治日程に上る可能性が出てきた。

この間の新聞各紙の世論調査によると、国民の八〇%以上が天皇の意思を尊重すべしとする好意的な反応が圧倒的多数を占めた。この結果では、

「公的行為」は、憲法上、イバートな外出や宮中祭祀

(2)面(11)